

令和5年度三島市歯科口腔保健推進会議 会議録

日時	2023年8月10日(木) 14:00～15:30
場所	三島市保健センター東館1階
配布資料	<p>【事前送付資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議次第 ・資料1「第2次三島市健康づくり計画令和4年度実施計画(実績)」 ・資料2「第2次三島市健康づくり計画令和5年度実施計画」 <p>【当日配布】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「席次表」とその裏面に「委員名簿」 ・資料3「第2次三島市健康づくり計画 歯と口の健康分野重点プロジェクト等の推進状況について」 ・資料4～7 県からの資料 ・第2次三島市健康づくり計画

1 委嘱状交付

14名に交付(欠席者2名には後日郵送)

2 市長挨拶

本日はお忙しい中、三島市歯科口腔保健推進会議に出席いただき感謝申し上げます。

新型コロナは2類から5類へ引き下げられ、社会経済活動も再開してきているが、マスク生活が長く続いたことから、会話の減少、口腔内の乾燥、在宅勤務などによる食生活の乱れなど、歯科口腔保健を取り巻く環境はここ数年で大きく変化し、むし歯の増加や歯周病の重症化が懸念されています。

今回の引き下げは、医学的な収束によるものとはまだ言えないことから、感染リスクに十分に配慮しつつ、「三島市歯科口腔保健計画」の重点プロジェクトであるオーラルフレイル対策を中心に取り組んでいく必要があります。

昨年度は、この会議において、本市の中学生のむし歯の深刻な状況についてご意見をいただきました。

今年度は、鈴木学園 中央歯科衛生士調理製菓専門学校にJ先生にご協力をいただく中で、新たな取り組みを開始する。

歯科衛生学科の学生の皆様に若い方の視点で、中学生向けの啓発用の動画を作成していただき、歯科医師会の先生方にも監修していただいた。この動画を活用させていただき、中学生への啓発活動に取り組んでいきます。

さて、国では国民皆歯科健診制度の導入が検討されているが、本日の意見交換では、オーラルフレイル対策として、「20代～30代のへの取り組み」についてテーマとさせていただきました。

若いうちから口腔ケアをしていくことは、非常に重要です。

委員の皆様方には、それぞれの専門的見地から、忌憚のないご意見・ご提言をお願いします。

<会長・副会長の選任>

会長は三島市歯科医師会の三宅委員、副会長は日本大学短期大学部食物栄養学科の高橋委員に決定。

3 会長挨拶

この歯科口腔の推進の条例は平成25年から現在まで10年経った。

この10年の間に8020運動は、ある程度結果を出してこられたが、その内容は単純に質より量の問題、歯周病であるとか虫歯であるということ抜きにしてとにかく、まず20個残そうってということで始まった運動です。

今後10年はより質を向上させて、究極の目標は、歯科医が神経を取るなどの手を下すことがないような方向でいきたい。今言われているのがオーラルフレイル、8020という言葉に比べ皆にもわかりにくい。悪い芽を摘むために、少し具合が悪いうちに早く治してしまうというようなものだと思います。骨がやせたことに対してもう増えるってことは絶対ない。ですから、いかに若いうちの状態を、よくするんじゃないかと、維持していくかというのが今の考え方です。

そうすると、20代、30代であまり手をつけなくて、大分弱ってきた時に、50代、40代になって歯がなくなってきたから大変だってやってもあまり意味がない、いわゆるサイレントデジーズっていう言葉で言われるんですけども、静かな病気で、その20代30代で培った駄目なものが後で、一生懸命歯科医が治してもなかなか治らないという結果になる。

やはり中学生からの虫歯、同時に歯肉炎とか歯周病に対しても、啓発していかなければならないと思います。

若い人たちに、僕らが上から目線でやるよりも、みんながいるんなところの人たちが、病気の恐ろしさというのをどのように啓発していくかということ、この会議で皆さんと相談したいと思っております。

4 議事

- 1) 令和4年度三島市歯科口腔保健推進事業報告について及び目標の達成状況について(資料1)
- 2) 令和5年度三島市歯科口腔保健推進事業計画について(資料2)

<事務局説明> (資料1・2)

<静岡県説明> (資料4～7)

<質疑応答>

【A委員】資料4のすべての項目で東伊豆町が突出して高いようなデータですけども、これは何か要因がわかっているようでしたら教えていただければと思います。

【B委員】このデータが長い間同じ状況が続いており、小学校を持つ親御さんたちにアンケートをとらせていただいたりしています。5歳、4歳ぐらいのお子さんにアンケートを取ったときのものでは周りの方から甘いものをもらう割合が高いというのが、東伊豆だけではありませんでしたけれども賀茂地域に特徴的に出ているかなというのがございました。あと小学生の保護者の方に伺ったときは、ご両親がお仕事をされていて歯科受診が非常に難しいということも出ております。むし歯の要因が甘いものと、歯垢だけではなくて社会経済的要因が大きく影響するということがありますので、受診しやすい環境や保護者の方が歯科受診させやすい環境づくりというのも非常に大きく影響するかなと。下田市の方で歯科の会議に出ましたときに、歯科クリニックの診療している時間が大体5時で終わってしまうというお話を聞きまして、そうすると、仕事をされている方は、どうしても時間が取れなくて休みを取って受診するというのに繋がるので、そのあたりも要因としては関係あるかなと思う。観光業のお仕事をされている方が多いかなと。あとは、漁業の方とかもいらっしゃると思う。そういう背景が影響しているのかなということで、断定はできませんけれども、推測されることがありました。

【C委員】今のお話に追加させていただきますと、東伊豆町が歯科医師会でいうと、賀茂あたりは先生の年齢もお高い状態で、まず来た人の虫歯を直すという方が中心となっていて、向こうの会長さんも、もう少し若い先生でみんなやっていただければいいなということも言っていたので、そういうことも関係しているのかなと思います。自分もう歳なんですけど、若い先生のそういうことに対する情熱というのはかなり強いので、世代が変わってくると少し変わってくるのかなと思っております。

【B委員】東伊豆町の名誉挽回ってわけじゃないんですけども、やっぱり虫歯が多いということを教育委員会の方も、町長さんも気にされていて、フッ化物洗口を始めていただいています。中学3年生では多いんですけど小学6年生のデータになると、東伊豆町がワースト1から、少し改善してきております。東伊豆町の良いところはその他に6歳臼歯を守ろうということ、シーラントとってかみ合わせの溝を埋める予防の処置もとっています。むし歯になりやすいと言われてるのが噛み合わせの溝なんですけど、そこを埋める方法も、市、町の事業として取り組んでいただいで少しずつ効果が上がってきている状況です。

3) 第2次三島市健康づくり計画 歯と口の健康分野 重点プロジェクト等の推進状況について (資料3)

<事務局説明> (資料3)

4) 意見交換

【D委員】今までちょっとお話聞いていて私を感じていることは、そこまで歯に関心がある方がいらっしゃるのかなってこと。もう少し啓発活動をしていかないか駄目なんじゃないかっていうところ。先ほどお話があった医科と歯科の連携のところ、医科の先生のところ、もう少しその糖尿病の方たちに歯科受診したほうがいいのかというお話をされた方がいいんじゃないかなと思いました。

【E委員】やはり歯が健康であれば身体も、糖尿病のK因にもなるということで、私自身は実は定期的に歯科医師に見てもらっているが、そういう人が、だんだん増えてくるような施策を考えていければいいんじゃないかと。そういう啓蒙活動をしていければいいんじゃないかなと思います。本当に歯の調子が良いと身体も病気になりにくい体質になると思う。

【F委員】働く女性目線で言うと、仕事を休んでまで歯科受診をするのか、具合も悪くないのにお休みをしますっていうのはすごく言いにくい。コロナだったら、コロナだから休みますって言いやすいように、義務になってしまえばいいのかなと思っていて、歯科受診を必ず受けなきゃいけないような法令や条例じゃないですけど。そこまでしない限り20代30代が仕事を休んで歯科受診をするっていうのはすごく難しいことなのかなと思いました。本当に土日や仕事が休みのときに何か、インセンティブをつけてでも、歯科受診をしてもらってもない限り、厳しいのかなと思った。あと育児中だと、どうしても自分のことは後回しになってしまうので、託児があるようなシステムとか、子育てをサポートするファミリーサポートセンターの力をお借りして、託児料無料券を出すとか、ファミリーサポートセンター1回無料券みたいな歯科受診に限りみたいなものをつけてやれば、子育て中で子どもがいる親御さんが歯科受診をするっていうのは、機会としてありなのかなと思う。

【G委員】今のお話聞いて感心をしておりました。目線が素晴らしいなと拝聴しました。20代30代の検診ってなかなか難しいっていうのは本当にそう思います。20代30代が、それよりも自分の楽しいこととか、面白いことやりたいこと目がいってしまう。自分は健康だから、大丈夫だっていう過信もあるかと思う。そこを職場でPRしたり、市の広報などいろいろな目に触れる場でPR活動を続けていただけたらと思う。よく、食べた後磨いたほうがいいのか、食べて少ししてからの方が歯には影響が少ないとか、あと洗口液がいいとか、歯磨きチューブはあまりゆすがないほうがいいのか、いろんな情報が出回っていて本当は何が一番いいのかまだ何が自分に合ってるのか。補助の歯ブラシ等も出ていますけど。どれがいいのか選ぶっていうのもなかなか難しく、何とかいい情報が身近にあるとより

歯に関心がいくのではないかなと思っております。

- 【H委員】フッ化物洗口に関しては、幼稚園でも毎日子どもたちがお昼の後、降園前に行っております。その後30分お水とか飲めないんですけどその辺を考慮しながらやっています。希望しないというご家庭も多いし、最近ではちょっと支援を要するお子さんなんかはその液が口の中を入れることが嫌だというお子さんもすごく多いので、その辺の対応というのがすごい難しいというのが現場ではあります。今、幼稚園も歯磨きをちょっと止めている状態で、今年度もまだ全員で行っていない状況なので、今後話し合い、お昼の歯磨きをまたやっていきたいという気持ちもある。歯医者さんに行くっていうイメージ的なものっていうのがやっぱり痛いとか、お子さんもそうですしお母さんたちもそうですし、そういう何かそういうイメージが払拭できるのかどうかとすごく思いつつ、妊婦さんの健診とかもある中で3歳児健診とかそういう健診の中でお母さんたちがそこで一緒に何か、そういう健診の子どもさんが何かをやるときと一緒に受けられるなどのシステムの多分、お母さんたちと一緒にできると、お母さんたちも一石二鳥になると今お話を聞いていて思いました。
- 【I委員】小学校の健口教室を私も見学しましたが、本当に1人1台タブレットで写真を映しながら、赤染液で熱心に取り組んでる様子を見ました。本当にこれは一つの大きな歯磨きのきっかけになるんじゃないかなと思います。あと歯磨きの状況ですけども、幼稚園の話でもあったように、以前は給食後に音楽を流していたんですけども、やはりコロナ禍で今それは流してないような状況で、自主性に任せてるとやってる子もいるし、やってない子もいるというのが現状です。3点目は治療カードはいつも歯科検診が終わった後に保護者に渡されます。それもただ渡すだけじゃなくて、夏休み前に面談とかありますので、その時に、再度再度繰り返しながら広報していただきたい。20代30代なんですけどもやはり小中学生のうちに、やっぱ習慣化というか、歯の大切さということについて、しっかり教育の中で教えてやるべきことがあるのかなと思いました。
- 【J委員】見て頂いた動画は実は今回、中学生に啓蒙活動をというときに、中学校はあまり時間がないということで、直接行って歯科衛生士さん達と何かをっていう時間がないかもしれないということで、動画を学生に作らせてみるというふうな案から始めてみました。私たちが教員の立場で作る動画と全く違って、興味を引かないといけないというところで5分以内で自由に作ったものですので、もう少しテーマを絞って、今後いろいろなライフステージごとに作っていきなななんて思っております。私が臨床歯科衛生士として臨床にいたころに一番難しい年代っていうのが中学生高校生だった。それは何が難しいかというとモチベーション付けが難しかった。中学生とか高校生は健康というような言葉って、自分の中の意識になくて、何が一番歯科に関して言うと響くかという中で口臭だったんです。女の子はまだ見た目という心理的な要素から話していくと、気を付けてくれるんですけども、男の子は部活があったりとか忙しい中で、あまりいろいろそういう心理的なことを言っても虫歯になるよっていう話をしても、あまり耳を貸してもらえなかった中で、一番右を貸してくれたのが口臭だったというようなところから、多分学生が口臭の話をたくさん出してきたんだと思うんですけども。中学生でまず学校歯科検診があり、それで歯科医院にかかるというきっかけがあって、そして、そこで私たち歯科衛生士の力をもっと発揮されなくてはいけないんですが、そこをきっかけに、かかりつけ医を作ってもらっているのが一番の予防だと思っています。よく職業がら、いろんな世代の方に、歯周病の予防は何ですかって聞かれるんですが、どんな歯ブラシや歯磨き粉よりも、歯科医院にかかるのが一番です。私たちプロの歯科衛生士の本当に0%に汚れを落とすものと、あと検査を年に1回でも受けてもらうことで、ぐっと減らすことができると思っています。まずそのきっかけづくりにこの中学生とか高校生の時から年に1回でもいいから、歯科医院に通ってもらえるようなシステムになったらいいなと思いますし、それに私たちも努力していかなければいけないなと思います。お口はそれぞれ違うので、今は歯磨き粉や歯ブラシは処方すると言われてるそうです。その人の口にあったものを歯科衛生士や歯科医師の先生方が選んで処方すると言われてる時代ですので、全員に当てはまるものっていうのではなくて、まずとにかく歯科医にかかっていたら、それが一番の良い方法ですので、それをもう少し打ち出していけるようにそして私たち歯科衛生士もそれが、当たり前になってもらえるように、痛くないケアをしてきていけたらと思っています。
- 【K委員】私はもうすぐ76になりますが、私らは歯医者へ行くのは、すべて治療で行くだけであって、だから結構虫歯の方が多。むしろ、入れ歯の方が多です。私はたまたまそういう時代でも、今のところインプラント二つありますがあととは全部自分の歯でいます。歯医者さんはこれから治療する歯医者さんからケアする歯医者になっていかないと。歯は一旦抜いたらもう永久歯ですので終わりであるから、実際その辺のケアは大事だなと思います。
- 【L委員】20代30代というのは、やはり必ずやらなきゃならないという受診義務を、行政でもやらなければいけないと思う。例えば大学生は、学校で大学の管轄でやる、或いはお勤めしている時は、健康診断があったときは必ず、いわゆる歯科検診を同時にやる。お金がかかるからやらないとか、そんなこと言っている場合じゃないと思う。1年に1回、或いは歯科検診の手帳を作るぐらい義務化をしなければ、痛くならなければ行かないし、痛くなって初めてその治療するということになる。それだったら必ず痛くもない時に、一応受診するという一つの義務化を。一つ私は強力に推したい。
- 【M委員】健康講座ということで、三島市さんではオーラルフレイル予防講座をやってらっしゃるということですけども、こういうところに出てくる方はすごく意識の高い方だと思う。出てこない方、例えば閉じこもりの高齢者であるとか情報を得られない方を、どう予防していくかということが課題になると思います。そこで、少し飛躍しますけれども、歯科疾患は痛みが強く、食事に影響することから少なからず、歯科医院を受診すると思われるので、その時

点で歯科医の先生から、フレイル予備軍の対象者を抽出していただき、一般病院で営業相談や栄養指導が行われているように、栄養士の立場からですけれども歯科医院においても、食事摂取についての指導を相談することは、できるのではないかと思います。実際にそういうことをしてらっしゃる歯科医院も、あるのかどうかということをお伺いしたいと思います。栄養士会ではですね、介護予防推進指導者を派遣する取り組みを行っておりますので、またぜひそういう取り組みで、栄養士指導者をご活用いただければと思います。

【B委員】皆様方からいろいろお話をしまして、やっぱり行政だけでは思いつかない。アイデアがたくさんあるんだなと感じた。先ほど、Fさんがおっしゃったファミリーサポート券を歯科検診に限り無料っていうのはとてもいいアイデアで、子育て支援策として非常にありがたいだろうなと思ってお聞きしました。それを障がいの方に対してもそんなサポート券をもしただけのであれば、普通の方よりも、治療が非常に受けにくい方々なので、施設に入ってる方は多分歯科検診を受ける機会があると思うんですけど、在宅の方で、また医療的ケア児の方だとか取り残されてしまいそうな方にも一つ制度を作っていただけないかと思いました。20代30代は非常に難しくてほとんどの方が多分、どこかにお勤めされたり大学生や専門学校に入ってらっしゃるので、L委員が言われた義務化っていうのがそこで効いてくるので、やはり事業所の方に、義務化をするか何かそれがインセンティブになるように、健康経営に取り組む事業にポイントがあったりすると思うのですが、三島市独自で何かそういう取り組みをされると、企業の20代30代の方が受診できるような機会を作って、スマートウェルネスシティですごく健康づくりに力を入れて、何かどこでも歯磨きをしようとかいろいろ新しい取り組みをされているので、三島市民の20代、30代は、三島の歯科医師会の先生のところだったところでも歯科検診はいつでもは厳しいかもしれないんですけど、受けられるような機会を作っていただけないのかなと思いました。

【A委員】歯科出前講座等は、是非とも機会があればそういうチャンスをいただければ、学生が少しでも歯について、学ぶ機会を得られればと思っております。それから私は短大の教員っていう以外の顔を持ってまして、実はまだ現役の循環器内科医でありまして、糖尿病患者さんとか診る機会が結構ありますが、私は10年ぐらい前から、必ず、歯科に通ってないような方は、検診を受けるようには促したりしております。三島市も糖尿病の対策の会議もお持ちですので、またそちらの方からでもぜひ歯科とリンクさせた運動を進めていただくと良いんじゃないかと思えます。また私ども、もう一つ別の顔として日本総合検診学会の運営に携わっておりまして、国民皆歯科検診の動きを受けてそこでも歯科検診の部会が立ち上がってまして、今歯科医師会の先生方とともに、何らかの形で歯科検診をもう少し推進しようという動きがございますので、いろいろな方面から、三島市も予算の限りあるかと思えますけども、少しでも何か先着何名とかそういうあれでも構わないと思うので、若い世代のですね、歯科健診を、予算の範囲でできる限り、補助していただけるような、さっきのサポート券ですかね。そんなような形をまず立ち上げていただけないのかなと思っております。

【C委員】オーラルフレイルと先ほどの健診の後の処置については、今はまだオーラルフレイルにまだ中心を置いていて、これからのことだと思っております。これに関しては、また、衛生士会等と連携してどういうふうにしていこうかということを考えていきたいと思っております。あとは、とにかく今皆さんのお話のようにインセンティブを持つことと、啓発がまず第1だと思います。我々も自分たちの業務の中でいろいろ言っていきたいと思いますが、皆様それぞれの立場で、そのようなお話をどんどんしていただければ、国民の気持ちの醸成になると思いますので、どうかこれからもよろしくお願いします。

閉会